

メインイベントの「お菓子まき」では大人も子どもも盛り上がりました



No.06 天星 ★笛吹発見さんぽ

天星製油株式会社の山梨営業所がある笛吹市は、山梨県のほぼ中央、甲府盆地の東側に位置し、豊かな自然に恵まれたまちです。桃の収穫量が全国の市町村で日本一を誇る「日本一の桃源郷」として知られており、春になると市内各地が桃の花の淡いピンク色に染まり、初夏から夏にかけては数々の品種の桃が旬を迎えます。また、ぶどうの収穫量も日本一で、ワインの産地としても有名です。さらに、石和（いさわ）温泉をはじめとする温泉地が点在し、年間を通して多くの観光客でにぎわいます。そんな笛吹市で近年注目を集めているのが、ご当地グルメの「ラーほー」です。ラーメンスープにほうとう麺を合わせるというユニークな発想から生まれました。ほうとうは、古くから家庭で親しまれている山梨県を代表する郷土料理です。小麦粉を水で練って平たく切った幅広の麺を、かぼちゃや白菜、大根、にんじん、ごぼう、

ねぎ、きのこなど、たっぷりの野菜や油揚げ、肉とともに味噌仕立ての汁でじっくり煮込みます。塩を使わずに作った生の麺をそのまま鍋で煮込むため、溶け出したでんぷんが汁にとろみを与え、素材のうま味と一体となった奥深い味わいに仕上がります。戦国時代には武田信玄が陣中食として用いたという言い伝えも残る、伝統の味です。このほうとうをもっと気軽に、多くの人に楽しんでもらいたいという思いから誕生したのが「ラーほー」です。笛吹市や観光協会、市内の飲食店が協力して開発を進め、2018 年にお披露目されました。「ラーほー」は、山梨県産のほうとう麺とラーメンスープを使うことが基本条件で、決まったレシピはありません。醤油・味噌・塩・豚骨など、スープはお店ごとに個性豊か。チャーシューやメンマ、煮卵といったラーメン定番の具材、ほうとうでおなじみの野菜、揚げ鶏やほうれん草など、トッ

今号から編集長になりました。よろしくお願いいたします。



2026年5月30日、従業員の家族に感謝の気持ちを伝え、弊社の仕事内容をお見せすることで、安心してもらう目的で、「天星祭」を開催しました。当日は、地域住民の方々にも声を掛けさせていただき、全体で70名ほどが参加して頂きました。タンクローリーの乗車体験や撮影会は、子供たちにも大人気。大人の来場者も、車の大きさや、高い助手席から見える景色に興奮していました。運営側は今回の規模で祭を行うことは初めてだったので、試行錯誤しながら準備を進めましたが、当日、参加してくださった皆さんの楽しそうな姿を見て、祭を「やってよかった」と心から思える一日になりました。

Episode.1 【ほうとうなのにラーメン？笛吹市発の新名物「ラーほー」】

ピングのバリエーションも実に多彩です。もちもちとしたほうとう麺と各店自慢のスープ、具材が生み出す味わいは、それぞれに違った魅力があり、食べ比べの楽しさも広がります。現在は市内外の20店以上で提供されており、笛吹市の新しい名物として定着しました。山梨営業所にお越しの際や、笛吹市へお出かけの際は、ぜひお気に入りの「ラーほー」を探してみてください。きっと新しいおいしさに出会えるはずです。



●参考資料
笛吹市観光協会「ラーほー」
<https://www.fuefuki-kanko.jp/scontents/raho/>

天星 Magazine

[テンボシ マガジン]

vol.24

Oct. 2026

No.01 編集長イジマのご近所探訪記 file#18

先輩たちが成し遂げた 県ベスト16超え目指す



★ 静岡県立浜名高等学校
バスケットボール部
鈴木さん 松下先生

今回は静岡県立浜名高等学校第二弾ということで、バスケットボール部の活動についてご紹介します。バスケットボール部を率いる部長の鈴木さんにお話を伺いました。

井嶋：まずは、現在のバスケットボール部について教えてください。

部長：現在は1・2年生合わせて13名で活動しています。水曜日を除いて毎日練習しており、平日は19時頃まで、休日は試合がない日は午前もしくは午後の半日練習をしています。

井嶋：バスケットボール部ではどのような目標を掲げているのでしょうか？

部長：昨年、西部2部リーグから西部1部リーグへの昇格を果たしました。今後は、次のリーグへの昇格と、西部地区大会でベスト5以内に入ることを目指し、前年の先輩たちが成し遂げた県ベスト16という記録を超えたいです。

井嶋：練習を見ていて部の雰囲気がとてもいいように感じますが、どうですか？

部長：バスケ部には裁量枠がありません。

みんな同じような境遇で入部してきているので、勉強も部活も意識高く行っています。少人数になりますので上下関係も厳しくなく、風通しがよい部活です。先生とも距離が近く意見も言いやすいですし、冗談も言い合えるような関係です。

井嶋：部長として意識していることはありますか？

部長：自分は、小学校でも中学校でもキャプテンを務めていました。その時の経験が今に活きていると思っています。その当時は感情を前面に出すタイプだったので、そのことでチームに迷惑をかけることもありました。現在は、自分の負の感情が周囲に伝染しないように注意しながら、先頭に立ってチームを引っ張っていくことを大事にしています。

井嶋：チームの課題はありますか？

部長：ONとOFFの切り替えのところで、声掛けをもっと活発化させたいです。練習開始タイミングや、休憩から再開のタイミングなどの切り替えがまだまだ足りないと思いますし、常に色んな声飛び交

うようにならないといけないと思っています。鼓舞する声や要求の声、言い合うことも時には必要だと感じます。

井嶋：鈴木さん自身の夢はありますか？

部長：小学生の頃からバスケットボールをしてきたので、できることならこれからも携わっていきたいです。教員になり、部活動を指導するということも視野に入れつつ、レベルの高い大学へ進学を目指して勉強にも取り組んでいます。勉強に関しても、部活の仲間と点数の勝負をしたり、切磋琢磨する環境があるからこそ自分自身も頑張れると思います。

井嶋：最後に、浜名へ進学を考えている後輩たちへメッセージをお願いします。

部長：浜名高校はどのスポーツもレベルが高く、勉強のレベルも高いです。仲間が頑張っているから自分も頑張れる環境があります。まさしく文武両道な学校です。そのような環境に身を置いて頑張りたいという気持ちがあれば、充実した高校生活を送れると思います。是非、浜名に入学してバスケットボール部に来てください！

< 発行 >

天星製油株式会社

検索

< HP >



〒434-0003
静岡県浜松市浜名区新原 3833-1
TEL：053-586-9911
<https://www.tenboshi.com/>

今回は、現場での中心的役割を担う入社 7 ～ 8 年目の中堅社員 3 名に集まってもらいました。

若手を支えながら自らも成果を求められ、組織の変化を肌で感じる立場でもある彼らは、日々どのような思いで仕事に向き合っているのか。

現場で直面している課題、働き方の変化の実感、そしてこれからの会社に期待することなど、率直な声を聞きました。

参加メンバー紹介

山田さん（入社10年）
営業2課所属

平ボディトラックにて
回収業務を担当。

藤田さん（入社8年）
精製課所属

車のオイルフィルター
の処分工程、回収業
務を担当。

佐野さん（入社7年）
エコメンGr所属

油の機械設備のメンテ
ナンスや清掃を担当。



Q 中堅社員としての役割と意識の変化があれば教えてください。

山田さん：役割はそれほど変化を感じていませんが、責任感はかなり芽生えました。自分が入社してから、平ボディGrの業績は一度も落ちていません。**少人数で業務を行っているからこそ、利益に直結するかどうかは自分次第なので、日々、責任感を持って仕事をしています。**

藤田さん：上司からのプレッシャーを受けつつ、後輩の育成をしなければならないという点に、中堅ならではの難しさを感じています。知らなければならない知識等も増え、知らないで済ませることができなくなったと感じています。

佐野さん：危機察知能力が向上しました。ここ 3 年ほどで後輩がかなり増え、教える立場に移行しました。新人は作業そのものに没頭し、周囲が見えなくなりがちなので、自分はリスクを先読みして回避するリスク管理を意識するようになりました。

社長からの一言！

3 人とも、私が面接して採用しました。こんなに立派なことを言えるようになるとは!!思っていました（ホントに!）。うれしいです。成長しましたね。今後の長い道のり「社業発展心技向上」へ、ともに歩みましょう。

Q 後輩の育成についてどのようにしていますか？

山田さん：“あえてやらせる”指導法をしています。答えをすぐに教えるのではなく、まずは体験をさせて、壁にぶつかったところでどうすればいいかを考えさせるステップを重視しています。

藤田さん：自分の行っている作業は、どちらかと言えば単純な作業をいかにミスなく行うかが重要。ですから、まずは適正なやり方を見せて真似してもらい注意する点を都度、教えるやり方を行っています。

佐野さん：若い子が多く入ってきたので、最近の指導はロジックを理解してもらうことから始めています。**なぜこの作業が必要か、どうしてこの手順なのかを過去の経験や背景を交えて説明し、納得して動けるように配慮しています。**

Q 将来的にどうなっていきたいですか？

山田さん：自分が担当している回収業務は、会社としての売上の比率がまだまだ少ない方になります。清掃作業のついでやタンクローリーでの集荷のついでが多いのが現状です。なので、一つの部署として確立できるぐらい自分が引っ張って、売上増に結び付けていきたいです。

藤田さん：過去に怪我や体調を不良で、長期的に働けなくなったことがありました。自分が苦しかった時にも社長がお見舞いに来てくださり、上司や仲間たちが声を掛けてくれて救われた自分がいます。なので、**自分にできる限りのことは会社のために尽くしていきたいと思っています。**

佐野さん：自分は全社員誰とでも分け隔てなく仲良くやっています。その利点を生かし、自分の部署の売上さえ良ければいいということではなく部署間をまたいで情報共有し、天星全体の底上げを図り、会社に貢献していきたいです。

本件については、当マガジンNo16（2024年10月号）に記載させていただきましたが、ここに来て一つの区切りを迎えましたので、続報として寄稿させていただきます。区切りは、「対話完了」という表現で県ホームページに掲載されています。本年3月24日に、静岡県とJ R東海の間で水資源補償に係る確認書が締結され、その履行に関して国の関与が約束されたと報道されています。確認書に記載された合意事項は

- J R東海は、水利用継続に向けた措置を継続的に講じる。それが困難な場合は費用負担する
- 補償の請求期限や対象期間に限度を設けない
- J R東海は水資源問題が生じた際、因果関係の立証を県や流域市町に求めない
- 国土交通省が関与する中立的モニタリング体制で工事の影響や対策状況を確認する。J R東海は、国交省の指導の下で対策を講じる義務を負う

となっていて、鈴木知事は「一定の解決

は出来た」とコメントし、流域市町の首長もこの確認書に同意し、締結式にも出席しています。本合意書において特徴的なことは

- 補償請求に期間を設けていないこと。工事期間中だけではなく将来にわたってとしている点
- 問題が生じた際、通常は訴求者側（自治体側）に立証責任があるところ、それについての調査責任は、J R東海にあるとしている点
- 民間企業であるJ R東海の事業に対して、国が責任をもって事業者指導を行うことを確約している点です。

また、水資源問題を始め、生態系の保全に関する事項や掘削残土の処理に関する事項など令和6年2月に県と J R 東海の間で整理した「今後の主な対話事項（28項目）」について、有識者で構成する「専門部会」での議論も終結しました。**これは、大井川の水資源や南アルプスの自然環境への影響を回避・低減するための環境保全措置やモニタリングの考え方について、**

一定の整理ができ、J R 東海の対応を了承したことを表しています。

6月には、流域市町の住民に対する周知が行われ、7月18日には上述確認書を確定する形で環境保全協定が締結されました。今後は、J R 東海が法令や県条例に基づく諸手続きを行い、その完了をもって工事着工の運びとなります。完成までには10年以上の期間が必要とされていますが、「新夢の超特急」の開通が今から待ち遠しいです。

（鎌田環境コンサルタント 鎌田俊己さん）



Key Word

☑ 法改正委員（7月）

高年齢労働者の労働災害防止対策講義。

☑ BCP 委員（8月）

事業計画書を各課ごとでディスカッションし危機意識を向上させる。

項目	排ガス	放流水	観測孔（水質）
		生活環境項目	
実施日	（2026.06）	（2026.05~2026.07）	（2026.06）
測定結果	○	○	○



法改正の講習を受けました